

平成27年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	1 組織的・系統的なキャリア教育・進路指導を通じ、生徒を将来展望に基づく進路決定に導く。 2 基礎学力の定着を基盤に、進路実現につなげる主体的な学習意欲を高める。 3 多様な教育活動を通じ、社会の一員としての自覚と責任、主体的行動力を育成する。 4 組織的かつ計画的に、開かれた学校づくりを進める。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	7名

学校自己評価					年度評価（3月4日現在）	
年度目標					評価項目の達成状況	達成度
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	・生徒の将来や卒業後の進路選択等に対する認識が不十分であり、積極的な進路意識を持っていない生徒が多い。継続的なキャリア教育・進路指導により、組織的かつ体系的な指導体制の構築を進め、生徒の進路意識向上に取り組むことが課題である。	・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的・計画的におこない、将来を考える進路指導を充実させる。	①進路の手引きを利用した4年間における進路指導体制を構築する。 ②生徒の長期休業中等での学校見学や企業説明会参加を推進する。 ③県支援事業や定期的な求人情報の提供など、就労（アルバイト含む）を積極的に支援する。 ④生徒に対する進路に関するアンケートを実施する。 ⑤地元企業との連携体制を充実させる。	①進路の手引に則した学年ごとの目標を踏まえた4年間間の進路指導計画の実施状況 ②参加状況の調査 ③生徒の就労率65% ④90%以上の生徒が「自分の進路について考えている」と回答 ⑤協力企業への就労等の状況	計画的・継続的なキャリア教育に対する校内体制の構築が進み、生徒の意識も高まりつつある。 ①各学年が、計画に則して実施することができた。 ②オープンキャンパス・企業見学に3年生・4年生の多くの生徒が参加 ③就労率58% ④回答78% ⑤協力企業への就労2名 県支援事業に2名参加	A
2	・多くの生徒にとって、基礎学力の定着や向上が必要であり、学力差も大きい。個に応じた学習指導の工夫により、生徒の意識を一層授業に向けさせ、「授業を大事にする」意識の醸成を図ることが課題である。	・個を認め伸ばす学習指導を充実させるとともに、授業を大事にする意識を向上させる。	①学習サポーターの活用やティームティーチング・グループ学習の充実、個々に応じた授業展開を工夫する。 ②希望生徒への資格取得の支援や模試等の実施。 ③生徒に対する学習に関するアンケートを実施する。 ④多様な生徒に対応するための特別支援教育体制を充実させる。	①各授業において、個に対応した工夫を実践 ②複数の資格取得者の輩出と模試の実施 ③90%以上の生徒が「授業にしっかりと取り組んだ」と回答 ④定期的に特別支援教育コーディネーターと連携し、新たな教材を活用	生徒個々を重視した指導体制が確立し、学習意欲向上のための工夫も効果をあげている。 ①各教科で協調学習や個別対応を昨年に続き重視し、学力向上に繋げている ②各種検定生徒受検（英検・新聞検定・文章検定）校内模試実施。 ③回答77% ④教育相談研修会を浦和特別支援学校より講師を招いて実施	B
3	・各種教育活動を通じ、生徒の学校に対する意識は高まっている一方、社会の一員としての自覚は、まだ十分とは言えず、社会人として重要な「公共心」を身に付けさせる必要がある。今後生徒たちに受動的に参加するだけでなく、一層しっかりと考える行事づくりに取り組むことが課題である。	・公共心を持ち、社会の一員としての自覚を促す多様な教育活動を充実させる。	①毎日の巡回指導と定期的な生徒指導講話を実施、公共心を意識させる生徒指導を徹底する。 ②各種学校行事において、生徒の主体的な活動場を提供する。 ③給食指導等を通して「食育」指導を充実、食の大切さ、命の重さを指導する。 ④学校周辺清掃活動を定着させ、生徒の関心を高め、参加を促す。	①生徒指導件数前年度減 ②学校行事の運営等において生徒会を中心とした生徒の関わる場面を増やす ③90%以上の生徒が「食に関する命の営みを理解した」と回答 ④1回平均参加率20%以上	様々な方策は、規範意識・公共心の向上にはつながったが、まだ生活指導に課題が残る。 ①生徒指導件数前年度とほぼ同数 ②全日制文化祭に定時制として企画参加 各学期での生徒会行事を生徒主体で運営 ③回答85% ④参加率全8回中20%に満たなかった回が3回、参加率平均20%	B
4	・保護者や近隣中学校に対する情報発信や連携は充実しつつあるが、参加保護者の固定化もみられる。今後魅力ある保護者会の実施に向けて、内容の充実及び広報活動の取組と、中学校との協力・連携を深めることが課題である。	・情報発信を基盤に保護者や中学校との連携体制を構築する。	①公開行事等において、保護者参加型の講演会等を計画する。 ②長期休業等での中学校訪問を活用し、中学校との連携体制を強化する。 ③保護者対象のアンケートを実施する。 ④学校HPと外部訪問・取材等を積極的に活用。	①全校保護者会に前年度を上回る数の保護者が参加 ②授業公開における前年度を上回る数の中学校関係者が来校 ③45%以上の保護者が、「保護者会等に参加したい」と回答 ④更新回数平均月4回以上。外部からの発信回数複数	保護者公開の講演会や全校保護者会の参加率は昨年同様であるが、参加者の固定化も見られた。中学校との連携は授業見学等に中学校の職員参加も見られ、効果が上がりつつある。 ①参加者昨年度比3名増 ②参加者昨年度比2名増 ③回答67% ④47回更新 視察：3回	A

学校関係者評価	
実施日	平成28年 3月 5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>全体的に定時制課程の教育活動が充実していて、素晴らしい取り組みをしていることに、定時制のイメージが大変変わった。特に、進学する生徒から就職する生徒まで、幅広い中での指導が細やかに行われている。しかし、多様な生徒が少なからず入学してきている中でその対応は大変ではあるだろう、今までの活動を活かして頑張ってもらいたい。</p>	
<p>定時制としての大道を進みながら、大進化を遂げている。定時制と全日制の壁がなくなってきていると感じる。特に、協調学習は全ての生徒に有効なものであり、定時制の生徒にむける必要なものである。浦校での全定での領域をこえて、協調学習ができていのはそれを実証している。大変すばらしい。生徒にも自信がついているともう。</p>	
<p>生活指導から生徒会の指導まで熱心に取り組んでいる。その中で、教員の意識も変化していると感じる。生徒にとって大変良いことである。しかし、「公共心」という面では、生活指導にまだ課題が残るとのことなので、今後とも指導いただきたい。また、「食育」にも目を向けた指導は大変に評価できる。</p>	
<p>保護者の参加率が上がっていることはとてもよいことである。さらに、魅力ある内容により保護者参加率向上を図るためには、保護者が主体的に参加できる中身を今後検討していく事も大切である。また、生徒自身の自立も考えたうえでバランスを保ちながら講演会等の中身を企画していく事が必要である。</p>	